

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M211N211	感覚器疾病論 (Disease of Sensory Organs)	専門基礎科目 健康科学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	2	後	金・4 その他	正木孝幸・河野憲司 (歯科口腔外科学) ・久保田敏昭 (眼科学) ・鈴木正志 (耳鼻咽喉科学) ・波多野豊 (皮膚科学) 内線: E-mail:

#### 【授業の概要・到達目標】

患者が抱える歯科・口腔外科疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患、皮膚科疾患の病因・病態の理解を深め、臨床の場で実際に行われている診断法や治療法について学習する。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 歯科・口腔外科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科領域の症候を理解し、説明できる。	○			○	○		
2. 主な疾患の病因・病態と検査、診断および鑑別疾患を理解し、説明できる。	○			○	○		
3. 主な疾患の治療の概略と要点を説明できる。	○			○	○		

#### 【授業の内容】

1	歯科・口腔外科：歯科疾患と全身との関わり
2	歯科・口腔外科：口腔粘膜疾患、口腔がん(診断)
3	歯科・口腔外科：口腔口蓋裂、口腔がん(治療)
4	眼科：解剖・生理・検査
5	眼科：結膜・角膜疾患
6	眼科：緑内障
7	眼科：網膜疾患
8	耳鼻咽喉科：耳科領域疾患
9	耳鼻咽喉科：鼻科領域疾患
10	耳鼻咽喉科：口腔・咽頭領域疾患
11	耳鼻咽喉科：頭頸部領域疾患
12	皮膚科：皮膚の構造と機能、皮疹の見方、検査法、治療法
13	皮膚科：湿疹、皮膚炎群、水疱症
14	皮膚科：膠原病、その他炎症疾患
15	皮膚科：感染症、腫瘍

#### 【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	学習記録で振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回の授業で学んだ事やその意義を考える時間を設ける。</li> <li>学んだ知識を応用する訓練を通じて、使える知識とする。</li> </ul>
B：意見の表現・交換	○	講義中に意見を求める。	
C：応用志向	○	事例を入れて鑑別診断を考えさせる。	
D：知識の活用・創造			

#### 【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	次回の学習内容について予習する。(8h)
事後学修	前回の授業で学習した内容を復習する。(8h)

【教科書】 系統看護学講座 成人看護学 [13]眼、[14]耳鼻咽喉、[12]皮膚 医学書院

【参考書】 系統看護学講座 成人看護学[15]歯・口腔

#### 【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3
期末試験	100%	○	○	○

【注意事項】 Moodle に授業資料が掲示された場合は必ずコピーをして授業に臨むこと。

【備考】 附属病院の臨床の第一線で活躍されている医師が講師となります。

担当教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	
教員の実務経験	医師（病院）	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	
教員以外の指導に関わる実務経験者	医師（病院）	
実務経験をいかした教育内容	病院の医師として患者の病態や疾病への理解による疾病論の知識を教授し、疾患の診断や治療法についての学習を支援する。	
授業形態	基本的には対面講義を行います。	